

プレスリリース

平成14年度食料品消費モニター第3回定期調査結果の概要について

調査時期：平成14年11月
調査対象者：食料品消費モニター 1,021名
(全国主要都市に在住する一般消費者)
調査方法：郵送によるアンケート調査
回収状況：1,012名(99.1%)

テーマ 砂糖の消費について

1. コーヒー、紅茶等に入れる量

コーヒーや紅茶を飲むときに、砂糖をスプーン何杯(スプーン1杯は3グラム)ぐらい入れるか聞いたところ、「0杯(砂糖は入れない)」と回答する人が最も多く49.6%、次いで「スプーン1杯」25.6%、「スプーン半分くらい」11.1%となっている。

年代別にみると、「スプーン半分くらい」と回答している人は60歳以上に最も多く16.9%となっており、年代が高くなるほど増加傾向にある。

コーヒー、紅茶に入れる量の経年変化をみると、「0杯(砂糖は入れない)」は、平成3年度は29.9%であったが、平成14年度は49.6%と増加傾向にある。また、「スプーン1杯」は平成9年度は31.9%であったが、平成14年度は25.6%と減少傾向にある。

2. 1ヶ月の砂糖の使用量

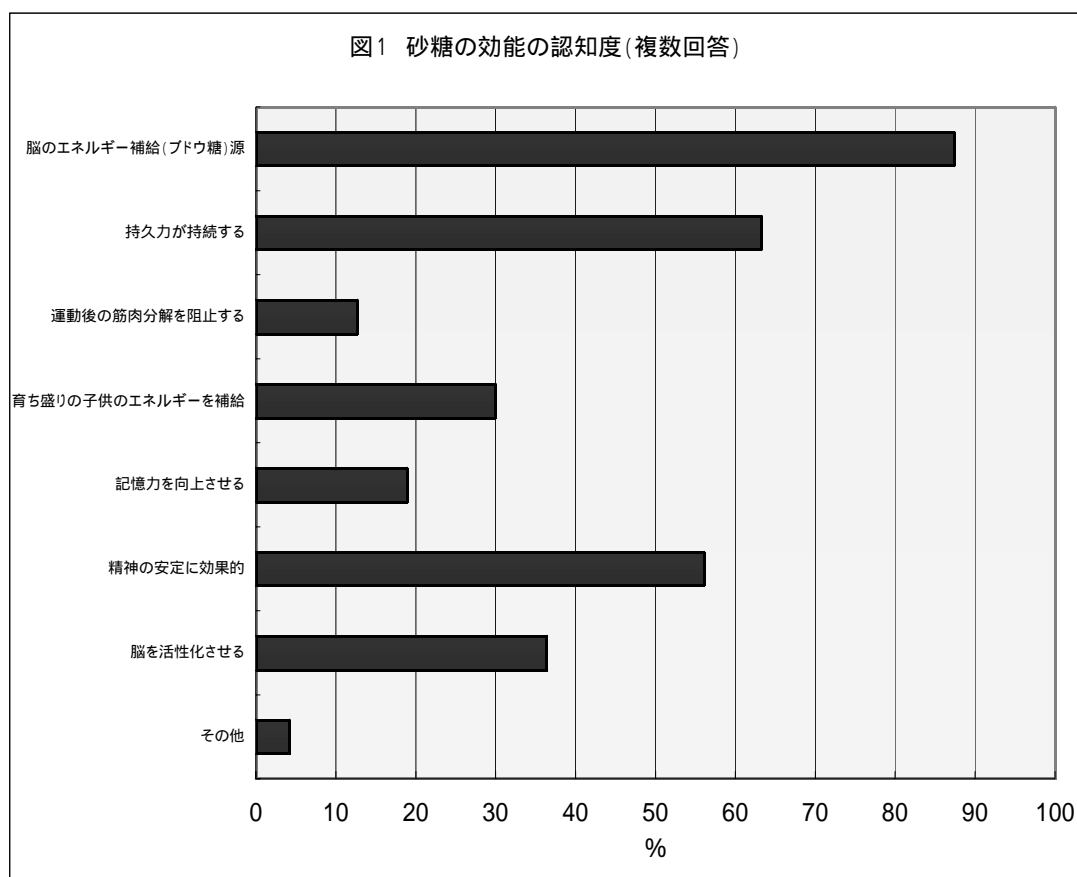
家庭での1ヶ月の砂糖の使用量を聞いたところ、「300g未満」と回答する人が最も多く35.0%、次いで「300g～500g未満」29.2%、「500g～1kg未満」22.2%となっている。

年代別にみると、どの年代も「300g未満」と回答している人が最も多く3割台となっている。「1kg～2kg未満」は30、40代が多くそれぞれ10.0%、12.9%、また「300g～500g未満」は20代が多く32.9%となっている。

3．砂糖の効能

砂糖の効能について知っているか聞いたところ（複数回答）、「脳のエネルギー源（ブドウ糖）源」が最も多く87.4%、次いで「持久力を必要とする運動中に砂糖を摂取すると、持久力が持続する」63.3%、「精神の安定に効果的」56.1%となっている。

年代別にみると、各年代とも8割以上の人々が「脳のエネルギー源（ブドウ糖）源」を1位に選んでおり、2位は20代を除く各年代が「持久力を必要とする運動中に砂糖を摂取すると、持久力が持続する」を選び5～7割台となっている。20代は2位に「精神の安定に効果的」を選び6割となっており、3位と逆になっている。



（注）「持久力が持続する」は、「持久力を必要とする運動中に砂糖を摂取すると、持久力が持続する」を表し、

「育ち盛りの子供のエネルギーを補給」は、「育ち盛りの子供の3回の食事では補えきれないエネルギーを補給」を表し、

「脳を活性化させる」は、「朝食に砂糖を摂取すると脳を活性化させる」を表す。

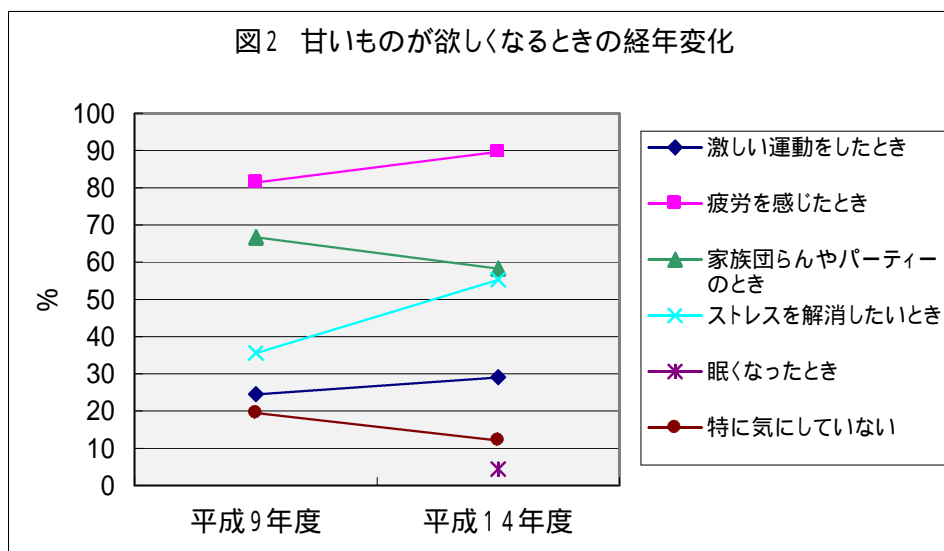
4．甘いものが欲しくなるとき

甘いものが欲しくなるときはどのようなときか聞いたところ（複数回答）、「疲労を感じたとき」を選ぶ人が最も多く89.7%、次いで「家族団らんやパーティーのとき」58.3%、「ストレスを解消したいとき」55.3%となっている。

年代別にみると、どの年代も1位に「疲労を感じたとき」と回答しているが、2位をみると20、30代は「ストレスを解消したいとき」を選んでおりそれぞれ6割台、40、50代、60歳

以上は「家族団らんやパーティーのとき」を選んでおり約5～6割となっている。3位は2位の逆となっている。「激しい運動をしたとき」を選ぶのは60歳以上が最も多く47.5%となっており、年代が高くなるほど増加傾向となっている。

甘いものが欲しくなったときはどのようなときかの経年変化をみると、「激しい運動をしたとき」、「疲労を感じたとき」、「ストレスを解消したいとき」は、平成9年度から平成14年度にかけてそれぞれ増加傾向にあり、「家族団らんやパーティーのとき」、「特に気にしていない」はそれぞれ減少傾向になっている。（図 2）

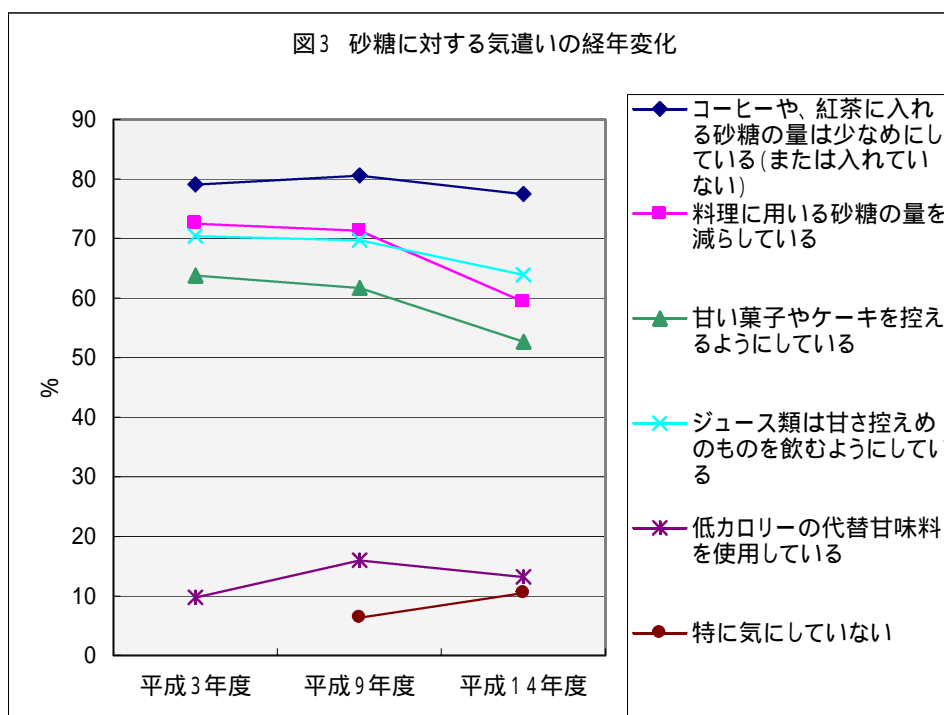


5. 砂糖に対する気遣い

砂糖や甘いものについて、普段から気を付けていることは何か聞いたところ（複数回答）、「コーヒーや紅茶に入れる砂糖の量は少なめにしている（または入れない）」と回答する人が最も多く77.5%、次いで「ジュース類は甘さ控えめのものを飲むようにしている」63.9%、「料理に用いる砂糖の量を減らしている」59.4%となっている。

年代別にみると、「コーヒーや紅茶に入れる砂糖の量は少なめにしている（または入れない）」を選ぶのは50代が最も多く84.9%となっている。「料理に用いる砂糖の量を減らしている」、「甘い菓子やケーキを控えるようにしている」、「ジュース類は甘さ控えめのものを飲むようにしている」は60歳以上が最も多く、それぞれ69.4%、71.7%、67.6%となっており年代が高くなるほど増加傾向となっている。

砂糖に対する気遣いの経年変化をみると、「特に気にしていない」と回答する人は、平成9年度（平成9年度より新設項目）6.4%から平成14年度10.5%と増加傾向となっているが、他の項目は減少傾向となっている。（図 3）



6. 購入したことのある低糖・無糖商品

低糖・無糖商品を購入したことがあるかどうか聞いたところ、回答者1,012名中、「購入したことがある人」は907名(89.6%)、「購入したことがない人」は103名(10.2%)となっており、年代が低いほど購入傾向が高くなっている。

低糖・無糖商品の中で「ジュース・コーヒー等の飲料」を選ぶ人が最も多く79.3%、次いで「ガム」47.8%、「キャンディー」44.1%となっている。(複数回答)

購入したことのある低糖・無糖商品の経年変化をみると、「ジュース・コーヒー等の飲料」、「ガム」については、平成9年度はそれぞれ68.4%、40.8%が平成14年度ではそれぞれ79.3%、47.8%と増加傾向となっている。それ以外の項目については、減少傾向となっている。

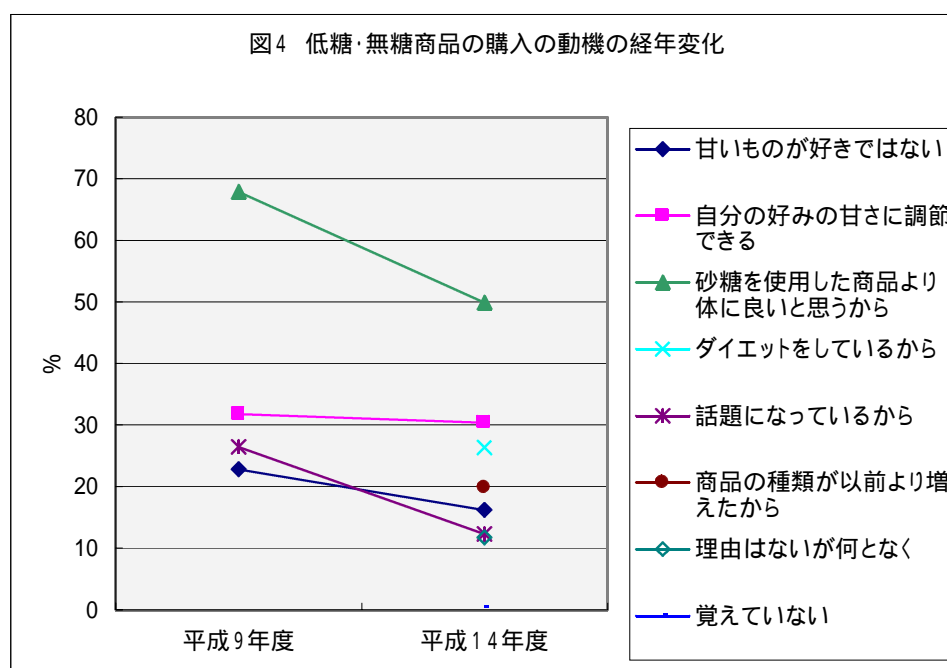
6-2. 低糖・無糖商品の購入の動機

「6」で「ジュース・コーヒー等の飲料」、「チョコレート」、「アイスクリーム」、「キャンディー」、「ガム」、「その他」と回答したモニター(907名)に、購入した動機は何か聞いたところ、「砂糖を使用した商品より体に良いと思うから」と回答する人が最も多く55.7%、次いで「自分の好みの甘さに調節できる」34.0%、「ダイエットをしているから」29.3%となっている。

年代別にみると、1位と2位の項目は各年代をとおして同じであるが(20代は「ダイエットをしているから」も同率1位)、3位をみると20代、60歳以上は「商品の種類が以前より増えたから」と回答しており、それぞれ23.5%、29.8%となっている。30、40、50代は「ダイエットをしているから」と回答しておりそれぞれ26.1%、33.9%、27.5%となっている。

低糖・無糖商品別の購入動機をみると、どの商品も１位に「砂糖を使用した商品より体によいと思うから」が選ばれ５～６割台となっている。２位をみると、「チョコレート」と「キャンディー」を除くどの商品も「自分の好みの甘さに調節できる」と回答しており、３～４割台となっている。また、「チョコレート」、「キャンディー」は「ダイエットをしているから」と回答しており３～４割台となっている。３位の項目は、その逆となっている。

低糖・無糖商品の購入の動機の経年変化をみると、平成９年度から平成１４年度にかけてどの項目も減少傾向となっている。特に「砂糖を使用した商品より体によいと思うから」は平成９年度は６７．９％であったが平成１４年度は４９．９％と大きく減少している。こういった低糖・無糖商品購入動機の項目の減少については、消費者が各種情報による砂糖の効能等に対する理解が深まってきたのではないかと推測される。（図４）



（問い合わせ先）

総合食料局消費生活課消費経済班

担当者：古川、宮瀬

電話：（代表）03-3502-8111（内線）3075

（直通）03-3502-1955